



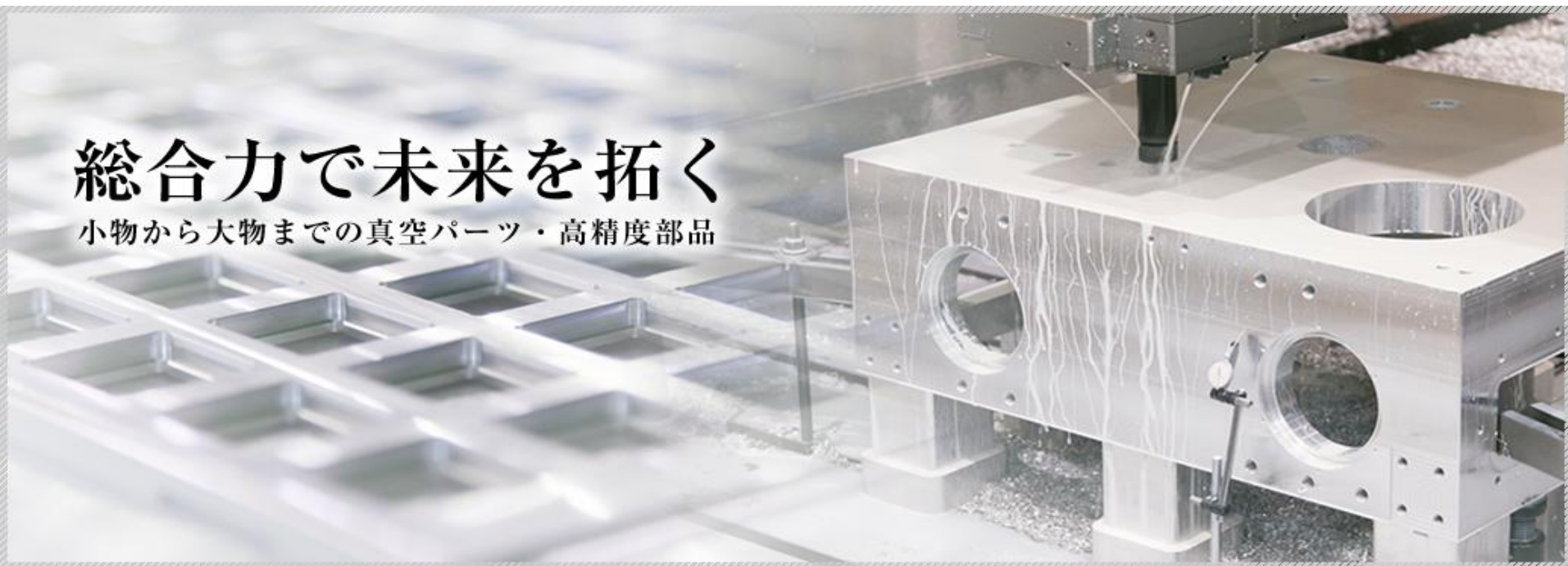
東証マザーズ(TSE Mothers):6264

株式会社マルマエ
平成28年8月期 第2四半期決算説明会

平成28年4月15日
大手町サンケイプラザ 310号室

総合力で未来を拓く

小物から大物までの真空パーツ・高精度部品



PL分析

PL

	平成27年8月期 第2四半期累計期間		平成28年8月期 第2四半期累計期間		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合 (%)	対前年同期 増減率 (%)
受注高	1,108	-	994	-	△10.2
受注残高	269	-	304	-	12.9
売上高	1,023	100.0	1,151	100.0	12.5
売上原価	743	72.7	754	65.5	1.4
売上総利益	279	27.3	397	34.5	42.2
販売管理費	108	10.6	130	11.3	20.5
営業利益	171	16.7	267	23.2	55.8
経常利益	168	16.5	250	21.7	48.7
特別損益	14	1.4	16	1.4	12.4
当期純利益	181	17.7	173	15.1	△4.1
EPS (円)	34.49	-	33.02	-	△4.3
EBITDA	225	-	339	-	50.4

Point

①受注状況

- 半導体分野：518百万円
(対前年同期：12.9%減)
- FPD分野：467百万円
(対前年同期：117.1%増)
- その他分野：9百万円
(対前年同期：96.9%減)

②売上高

- 対前年同期12.5%の増加
- ※分野別の詳細は次頁

③売上原価・売上総利益

- 材料費：26百万円減
(対前年同期：13.0%減)
- 労務費：43百万円増
(対前年同期：20.8%増)
- 外注加工費：78百万円減
(対前年同期：39.0%減)

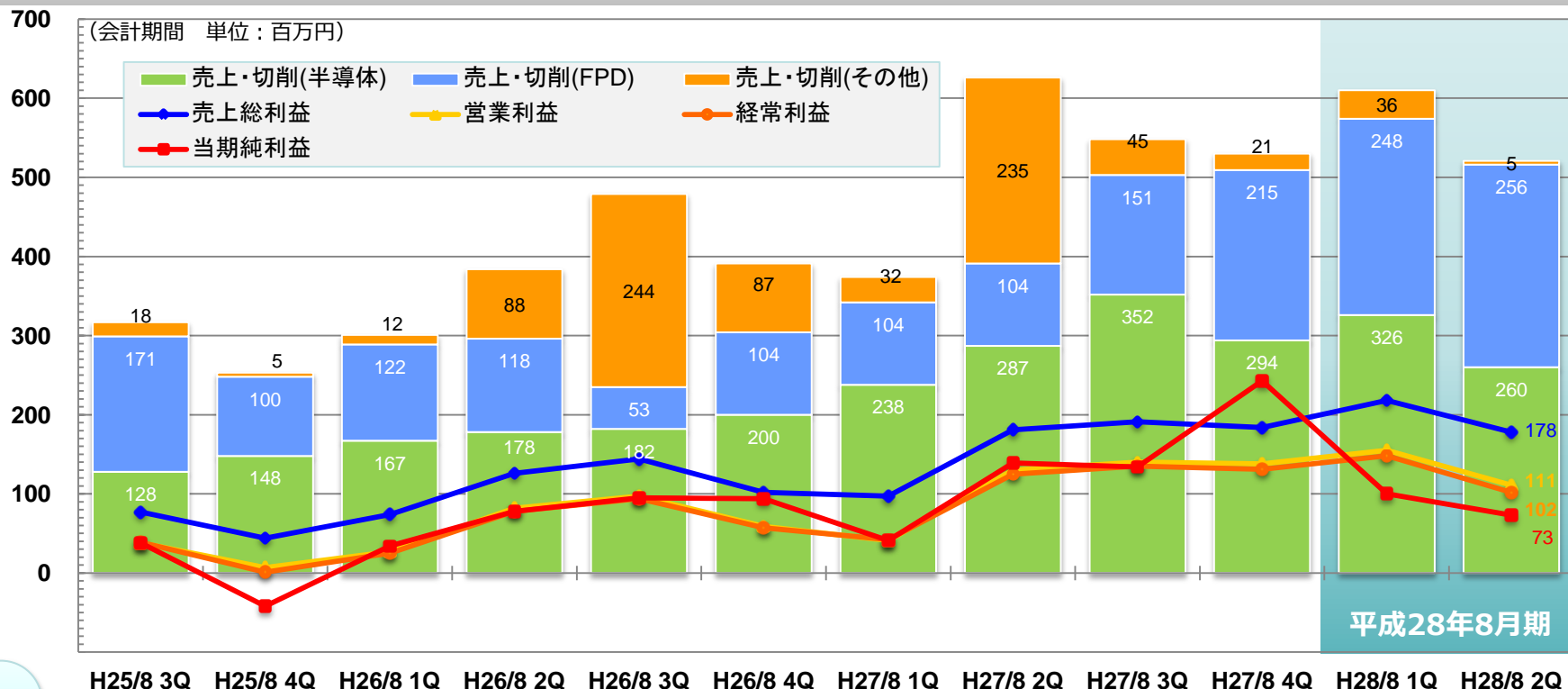
④営業利益

- 販管費は研究開発費と人件費の増加

⑤営業外収益/費用・特別利益/損失

- 支払利息：12百万円、補助金：10百万円
- 法人税等：92百万円

四半期業績の推移



Point

①売上高は、FPD分野が大幅増加（数値は累計期間）

■半導体分野：586百万円（対前年同期：11.5%増）

- ・市場環境が好調にくわえ、顧客内におけるシェア拡大と生産体制の強化で堅調に推移

■FPD分野：505百万円（対前年同期：142.0%増）

- ・旺盛な設備投資意欲を背景とした受注増加

■その他分野：42百万円（対前年同期：84.2%減）

②損益面では売上高の増加と生産性向上で順調

- ・売上高増加と生産体制の強化により営業利益は前年を大きく上回る
- ・四半期純利益は、税効果会計における繰延税金資産の減少を反映

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

1.決算概要

B/S分析

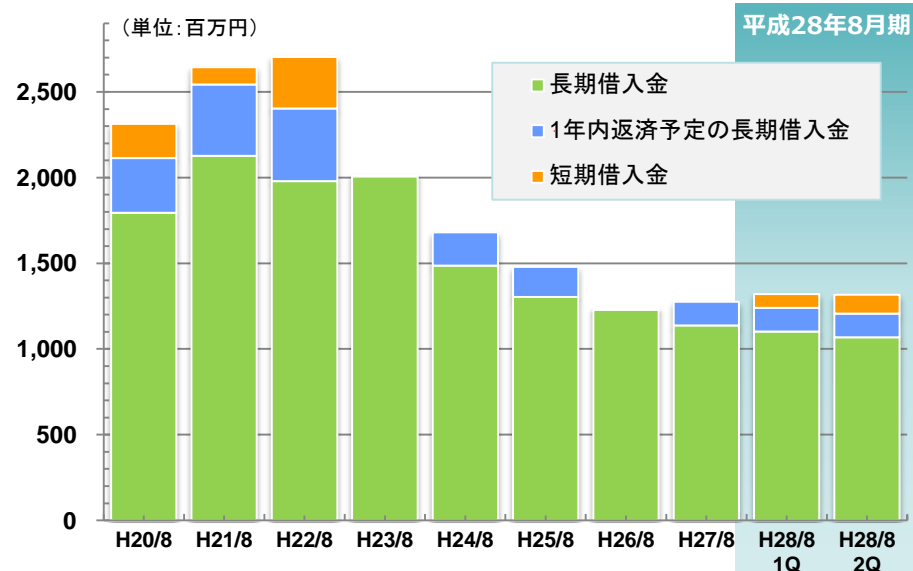
B/S

(単位：百万円)	平成27年8月期 会計年度末	平成28年8月期 第2四半期末
流動資産	1,234	1,198
現金及び預金	397	333
売上債権 (受取手形・売掛金電子記録債権)	574	679
たな卸資産	165	122
固定資産	954	1,125
建物・土地	605	642
機械及び装置	271	440
流動負債	333	424
有利子負債（短期）※	138	248
固定負債	1,140	1,073
長期借入金	1,137	1,068
負債合計	1,473	1,497
純資産合計	715	826
総資産	2,188	2,323

※ 有利子負債（短期）：短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

Point

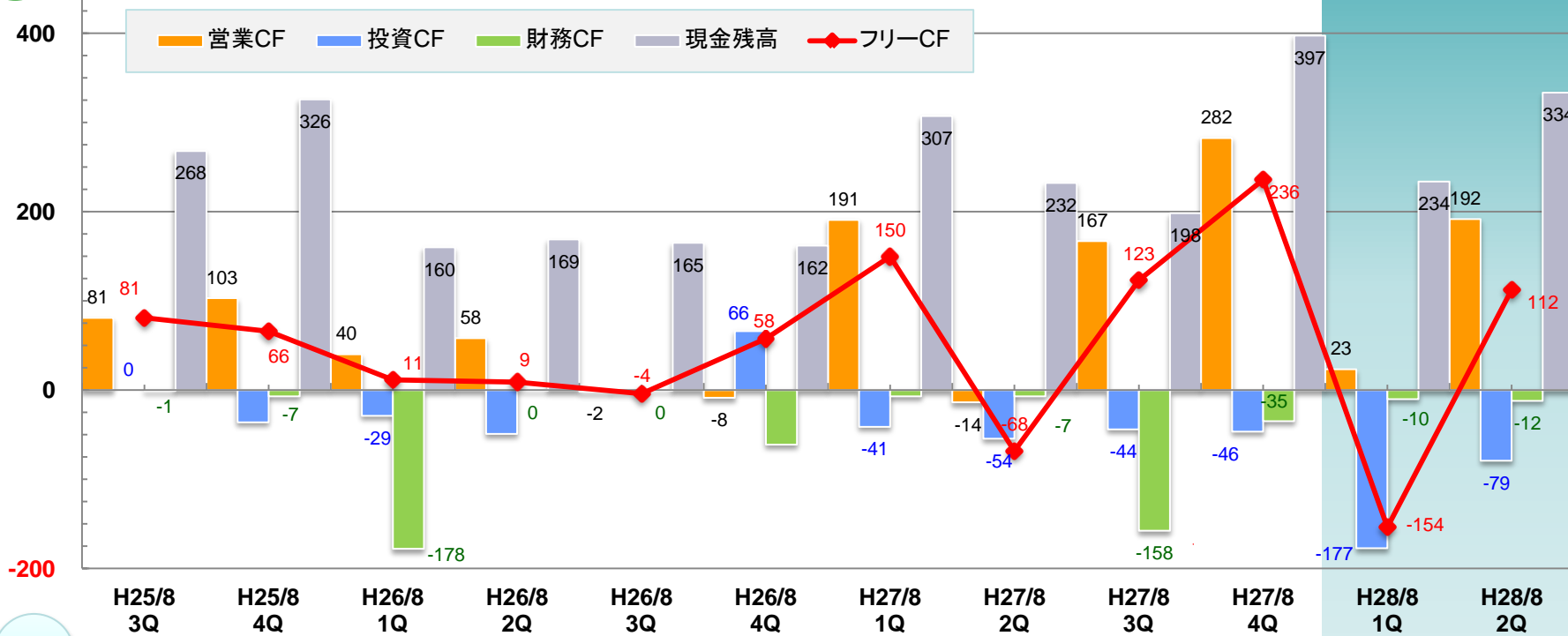
- ① **資産：2,323百万円(前期末比:134百万円増加)**
 - 売上債権：104百万円増加
 - 有形固定資産：190百万円増加
 - 現金及び預金：63百万円減少
 - たな卸資産：42百万円減少
- ② **負債：1,497百万円(前期末比:24百万円増加)**
 - 短期借入金：110百万円増加
 - 未払法人税等：29百万円増加
 - 長期借入金：69百万円減少
- ③ **純資産：826百万円(前期末比:110百万円増加)**
 - 利益剰余金：110百万円増加
 - 自己資本比率：32.7%→35.6%



CF分析

CF

(四半期会計期間、単位：百万円)



Point

① 営業活動によるCF (当期累計) : 215百万円

- 税引前当期純利益 : 266百万円増加
- 減価償却費 : 72百万円増加
- 売上債権の増加 : 103百万円減少
- 仕入債務の減少 : 28百万円減少
- 未払消費税等の減少 : 26百万円減少

② 投資活動によるCF (当期累計) : ▲256百万円

- 有形固定資産の取得による支出 : 255百万円

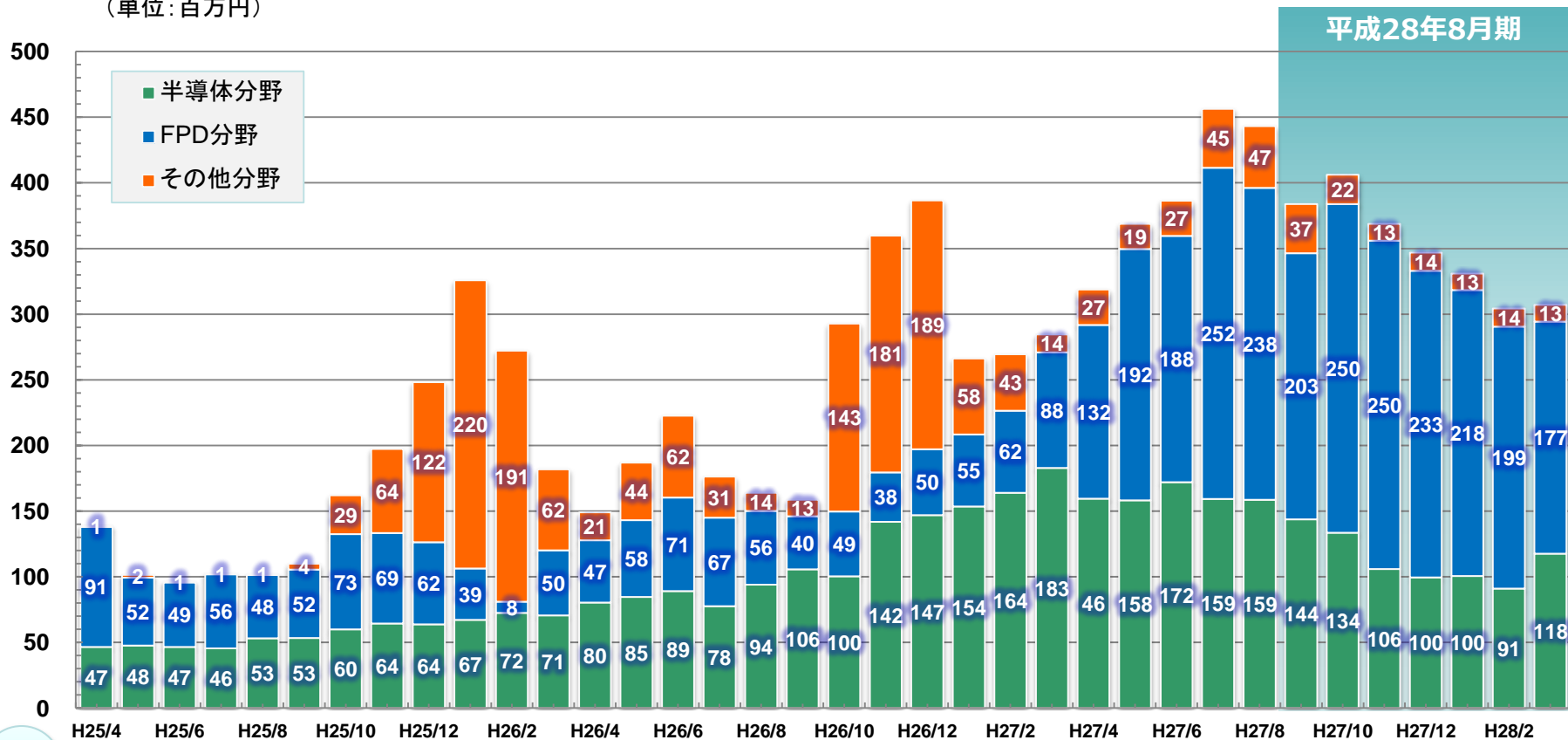
③ 財務活動によるCF (当期累計) : ▲22百万円

- 短期借入れによる収入 : 120百万円
- 長期借入金の返済による支出 : 69百万円
- 配当金の支払額 : 62百万円

※グラフは四半期毎の会計期間の数値ですが、ポイントのコメントは当期の累計期間の数値となっております。

月次受注残高の推移

(単位:百万円)



Point

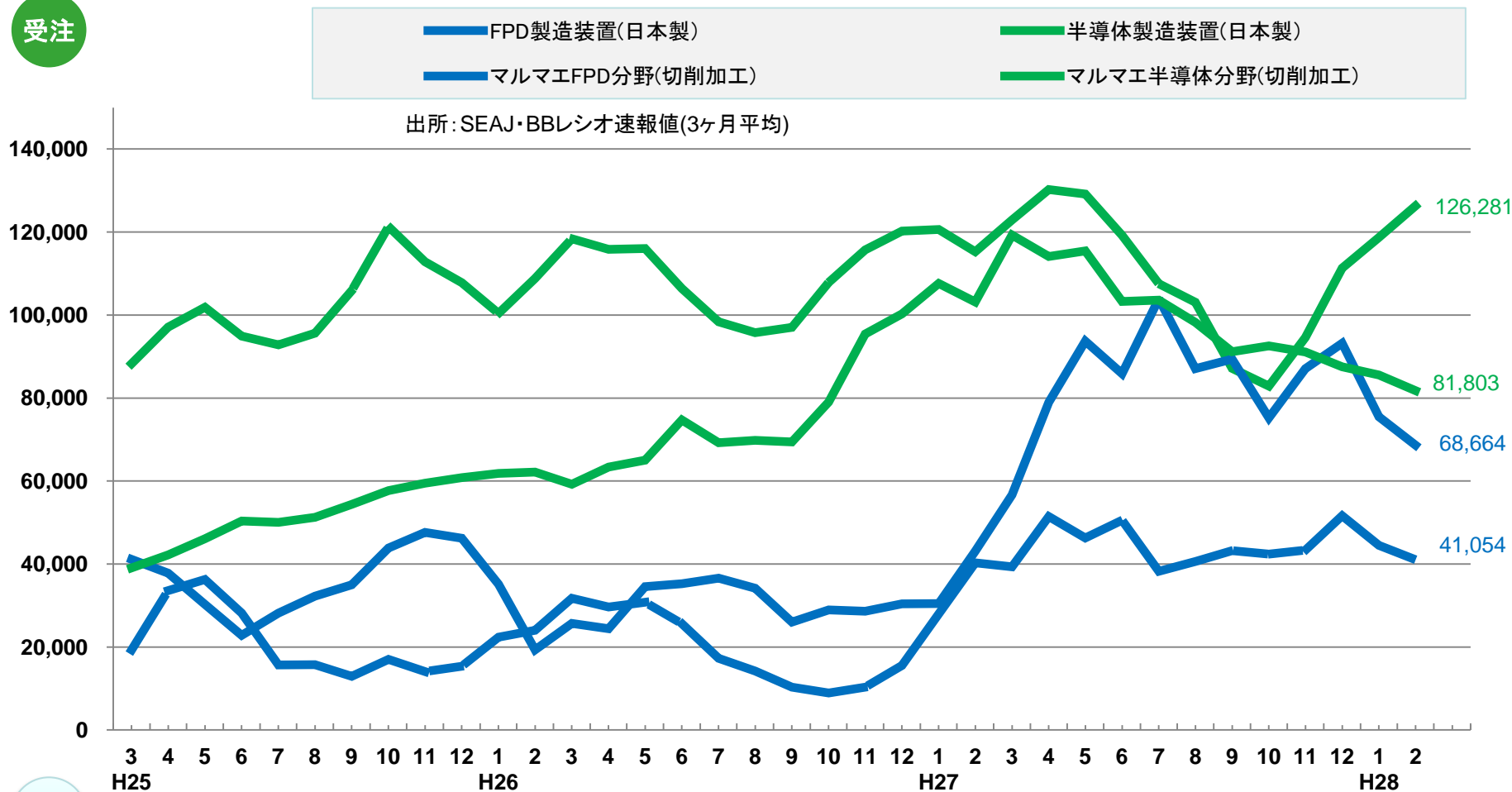
- 半導体分野では、エンドユーザーの微細化投資に伴う受注増加が始まる。
- FPD分野は、目先受注は一段落も、中国向け案件の引合いが活発化。
- その他分野は、複数案件の引合い出るも受注に至らず。

※当社の受注は、案件ごとに長短さまざまなリードタイム (LT) があり、LTの長い案件が多いと売上高に比べ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高に比べ受注残は低めに表れます。(主に半導体はLTが短く、FPDはLTが長めです)

2.事業環境

市場とマルマエの受注動向比較（3ヶ月移動平均数値）

受注



Point

- 半導体分野は、前工程の製造装置等で先送りされていた投資が再開され受注が上昇に転じる。
- FPD分野では、設備投資は、中国を中心に旺盛な大型・中小型パネル用投資計画が継続。

販売分野別の環境と方針

半導体分野

- ◆ 微細化投資が本格化し拡大へ向かう
- ◆ エッチング、洗浄、ALD※等の工程は成長見込
- ◆ エッチングと洗浄の工程で受注拡大狙う

FPD分野

- ◆ 中国の設備投資は需給を無視した爆発的水準
- ◆ H28年からH29年年末までG10.5中心にG6など幅広い投資
- ◆ 固定費は抑制し、協力企業拡大で顧客ニーズに応える

その他分野

- ◆ スマートフォン関連不調 リハビリとロボットで新市場
- ◆ 従来顧客では新型受注活動
- ◆ リハビリ装置の開発を先行

※ALD（原子層成膜：熱処理成膜装置）

3.平成28年8月期の業績予想

今期の見通し(損益・設備投資・固定費要因)

業績
予想

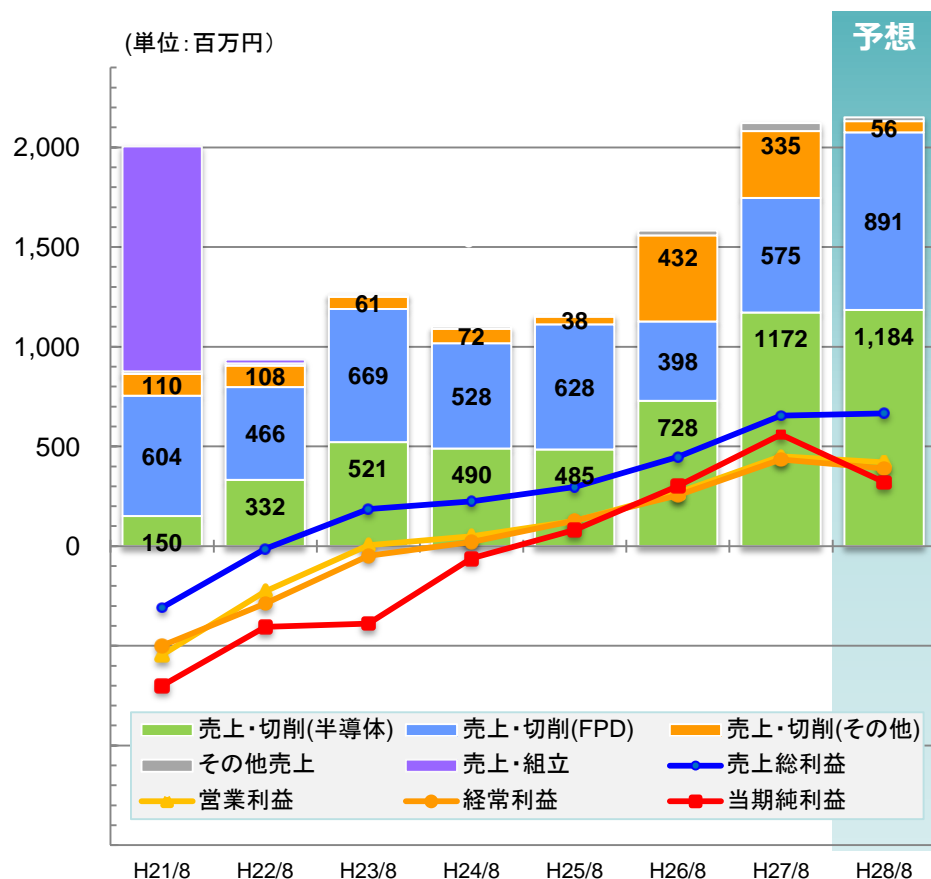
(単位：百万円、1株当たり当期純利益は円)

平成28年8月期 業績予想	売上高	営業 利益	経常 利益	純利益	1株当たり 純利益
通期	2,150	420	390	320	60.74

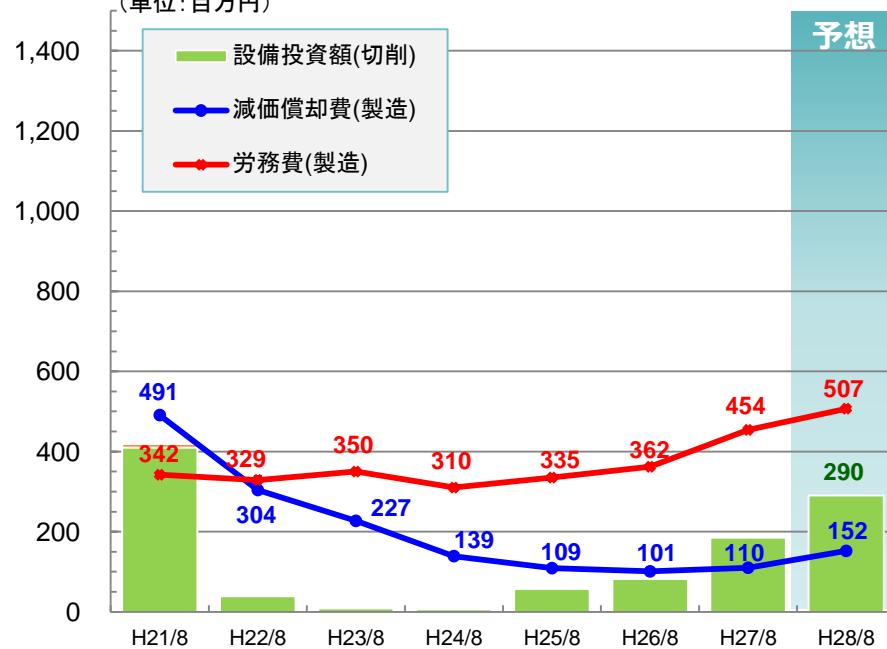
Point

- ✓ 平成28年4月1日に修正開示
- ✓ 売上高は、主にFPD分野の受注が好調に推移していることから増額修正
- ✓ 損益面は、売上高が増加したこととから、営業利益、経常利益及び四半期純利益とも前回予想を上回る見込み

(単位：百万円)



(単位：百万円)



中期事業計画（計画期間H28/8期～H30/8期）の進捗

戦略

M&A方針と従来事業のブラッシュUP



H27/8期

H30/8期

R&D

鹿児島大学との共同研究

鹿児島大学※と共同研究開始

※ 鹿児島大学大学院理工学研究科 余永研究室

1. リハビリ装置の研究開発

2. 作業筋力補助ロボットの研究開発

市場ニーズの高さから、まずリハビリ装置の製品化を先行

R&D

リハビリ装置

【概要】

脳卒中の後遺症として腕や足に残る運動麻痺の改善を狙うリハビリ装置

まず、腕の麻痺改善装置に着手

1. 日本だけでも約3百万人※の患者
2. 従来は理学療法士がマンツーマン対応

※出典：厚生労働省「平成23年(2011)患者調査の概況」

中期事業計画（計画期間H28/8期～H30/8期）の進捗

R&D

リハビリ装置の研究開発



写真は、今後、当社と鹿児島大学で共同研究を進める装置の一例で腕に対するリハビリ装置です。現在は、商品設計を進めており、今期中には試作機を完成させる予定です。

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確実要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先
株式会社マルマエ 管理部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-64-2900 FAX 0996-64-2863



Company Profile

企業情報

当社製品は世界中で半導体・液晶製造装置の心臓部を支えています

主要工程

- エッチング
- CVD
- コータ/デベロッパ
- スパッタ
- 枚葉洗浄
- アッシング
- ウエハーボンディング
- イオン注入
- アニール

主要製品

- 真空チャンバー
- シャワーヘッド
- 排気板
- 静電チャック
- ヒーター類
- 上部電極
- ターゲット
- 搬送系パーツ類
- 各種真空パーツ類

※画像はイメージです

総合力で未来を拓く -真空パーツ・マシニング・門型加工の専門メーカー-

会社名	株式会社マルマエ (Marumae Co., Ltd.)		大株主 (普通株式)	前田 俊一	2,786,100株
設立	昭和63年10月			株式会社マルマエ (自己株)	328,382株
資本金	1億3585万円 (平成28年2月29日現在)			前田 美佐子	252,000株
役員	代表取締役社長 前田 俊一			マルマエ共栄会	112,100株
	専務取締役 山元 弘	取締役 兒島 吉二		川本 嘉世子	107,600株
	取締役 海崎 功太	取締役 寺畑 幸雄		日本トラスティ・サービス 信託銀行	95,500株
	取締役 藤山 敏久	取締役 梶 智和		前田 良子	90,000株
従業員数	122名 うち 臨時雇用者等50名 (平成28年2月29日現在)			五十嵐 光栄	83,700株
所在地	本社	〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41		齋藤 格	62,700株
	関東事業所	〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15		渡辺 勉	49,600株
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精密機械・精密機器の設計・製造・加工・組立 ・精密機械部品の設計および製作 ・溶接部品の設計製造 ・運送業務 		敬称略 平成28年2月29日現在		
経営理念	<ol style="list-style-type: none"> 1.技術は究極を目指し 2.競争と協調を尊び 3.技術注力企業として社会に貢献する <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。 そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>				

総合力で未来を拓く -真空パーツ・マシニング・門型加工の専門メーカー-

年月	沿革
昭和40年4月	鉄工所を故前田務（元社長、元相談役）が個人で創業
昭和63年10月	マルマエ工業有限会社（現当社）設立（出資金2,000千円）
平成4年	オートバイ部品製造目的のT'sM'sR&D（現当社事業）を前田俊一（現代表取締役社長）が個人で創業
平成9年9月	T'sM'sR&Dの事業をマルマエ工業有限会社に統合しR&D事業部を設置
平成13年4月	株式会社マルマエに商号及び組織変更（資本金10,000千円）
平成15年12月	鹿児島県出水郡高尾野町（現出水市）に本店移転、本社新工場竣工、大型5面加工機導入
平成16年12月	日本証券業協会によるグリーンシート銘柄指定（証券コード6264）
平成17年12月	本社第2工場竣工
平成18年2月	鹿児島県出水市知識町の旧本社工場再取得（現知識工場）
平成18年12月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
平成19年2月	熊本事業所（熊本県菊池郡大津町）が稼動を開始
平成19年5月	経済産業省発表の2007年度版「元気なモノ作り中小企業300」に選定
平成20年3月	本社第4工場竣工
平成20年4月	関東事業所（埼玉県朝霞市）が稼動を開始
平成23年4月	熊本事業所の閉鎖
平成23年7月	事業再生ADR手続の成立
平成23年8月	A種優先株式の発行
平成27年1月	事業再生ADR手続による事業再生計画の終結

※注 個人事業部分については、月次の確定が困難なため月の記載を省略しております。